

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第15号 —

令和2年2月20日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048(946)2200(代)

ホームページ [草加市立病院](http://www.soka-city-hospital.jp) 検索

<http://www.soka-city-hospital.jp>

～診断から緩和ケアまで～ 地域で完結するがん診療をめざして

我が国では悪性腫瘍(がん)は1981年(昭和56)に死因の第1位となって以来、一貫して増加傾向です。がんの平均発症年齢は65歳を越え、がんで亡くなる人の85%は65歳以上です。つまり、がんは高齢者の慢性疾患であるということになります。当院でも毎年約1,000人のがん患者さんが新たに登録されており、今後も高齢者人口の増加と共にがんの罹患率は増加すると予想されています。もちろん、がん診療では早期発見、早期治療が重要です。草加・八潮医師会では、2019年度より『胃がん内視鏡健診』を始めました。一方、2007年のがん対策基本法が制定され『早期からの緩和ケア』、治す医療と支える医療の併用の有用性が示されています。当院では2019年10月に緩和ケア専任の医師を迎え、緩和ケア病棟の開棟に向けて準備中です。今号では近年の緩和ケアについての考え方をご紹介します。併せて2018年に再開した耳鼻咽喉科で担当している頭頸部領域のがんと、女性がかかる最多のがんである乳がんの診療についてもご紹介します。



病院長 矢内 常人

緩和ケアについて



緩和ケア科 診療科長 鈴木 友宜

はじめに

皆さんは、緩和ケアにどんなイメージをお持ちですか？

十分に理解されているという方もおられると思いますが、一方でがんが進行した時に受けるものだから知りたくもないとお考えの方も、もしかしたらいらっしやるかもしれません。

何となくつらさを和らげるのかなど想像はつくけど、実際はどういうことなのか分からない方も多いのではないのでしょうか。

今回は、緩和ケアについて説明させていただき、さらに草加市立病院に新しくできた緩和ケアの体制についても紹介させていただきます。

緩和されるべきつらさ

患者さんやご家族はどんなつらさに直面するのでしょうか。

つらさ自体は、ひとりひとり違いますし、また病状によっても変わると思います。

がん患者さんを例としてあげると、がんによる痛みなどの症状ばかりではなく、がんと診断されたときのショックや気持ちのつらさ、抗がん剤の副作用や手術などの治療に伴う痛みやつらさ、また再発や転移がわかったときは、不安やうつ状態が現れるかもしれません。

さらに、仕事の問題や経済的な問題、家族関係の問題も起こりえます。

このように、決して進行した状態だからつらさが大きいわけではなく、診断された時から様々なつらさを感じる可能性があります。

今までのがん医療の考え方では、がんを治すということに関心が向けられ、病院でもこれらのつらさに対して、十分な対応ができていませんでした。

しかし、最近では、患者さんがどのように生活していくのかという療養生活の質も、がんを治すことと同じように大切に考えられるようになってきています。

緩和ケアとは

がんの治療とともに、患者さんやご家族の生活の質の向上が求められるなか広がってきたのが緩和ケアです。

『緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族ひとりひとりの身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアである』とされ、さらに短く一言で表すと、『病気に伴う心と体の痛みを和らげること』となりますが、いずれも世界保健機関が2002年に発表した緩和ケアの定義がもとになっています。

その定義では、病気の時期を問わず、がんばかりでなく、命を脅かす病気によるつらさに直面している患者さん本人とそのご家族に対して、そのつらさを少しでも和らげることで、日常生活をもっと楽にすごしてもらえることを目的とすることが記されています。

患者さんを、がんの患者さんと病気の側からとらえるのではなく、その人らしさを大切にし、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル(霊的)な苦痛を全人的苦痛ととらえて、早期よりつらさを和らげる医療やケアを積極的に行うことで、患者さんやご家族の療養生活の質をよりよいものにしていくことができると考えています。

当院における緩和ケア

当院では、2019年10月より緩和ケア科を開設し、外来・入院患者さんの症状緩和に努めています。

緩和ケア外来では、2020年1月現在、当院かかりつけの患者さんのみを対象としていますが、主治医と連携をとりながら、がんに伴う痛みや不安などの苦痛症状の緩和を行っています。

木曜日を除く平日の午後に診療を行っていますが、患者さんの利便性にも配慮し、主治医の外来終了後、午後までお待ちせず、すぐに診療する体制をとっています。

入院中の患者さんには、緩和ケア科医師・緩和ケア認定看護師・薬剤師などからなる緩和ケアチームで対応しています。

緩和ケアチームは、からだやこころのつらさを緩和する方法を、担当医や担当看護師と一緒に考えるチームで、その方らしい療養生活を支援することを目的としています。

緩和ケアチームのサポートが必要だと

担当医や担当看護師などが判断した時、または、ご本人やご家族からの希望があった時に、緩和ケアチームへの依頼が出され、病棟で診察をします。診察結果を踏まえて、担当医や担当看護師と相談の上、薬やケアの方法など調整するサポートをしていきます。

また、病気の進行によって生じる様々なつらさを和らげるための治療とケアを提供する専門の病棟として、緩和ケア病棟の開棟に向けて準備を進めています。

おわりに

がんのような身体や気持ちのつらさをもたらす病気になったとしても、市民の皆様が安心して過ごしていただけるように、院内はもとより、地域病院・診療所・訪問診療の先生方、訪問看護師さん、介護スタッフさん、薬剤師さん、ケアマネージャーさんなどと、密な連携を図りながら、つらさを少しでも和らげていければと考えています。これから何とぞよろしくお願いたします。



耳鼻咽喉科におけるがん治療について

耳鼻咽喉科 診療科長 野村 文敬



ごあいさつ

2017年4月より耳鼻咽喉科は常勤医師が不在となり、入院や手術治療が中断されたため地域の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。2018年4月より3名の常勤医師が赴任し、入院、手術治療共に再開となりました。

1名が耳鼻咽喉科専門医・指導医および頭頸部がん専門医の資格を持ち、1名が耳鼻咽喉科専門医の資格を持っています。地域のクリニックや病院とも密接に連携をとり、様々な疾患に対する治療を行っております。

耳鼻咽喉科としては草加市内唯一の入院、手術加療が可能な病院として、地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

頭頸部がんの治療方法について

頭頸部がんについて

「頭頸部がん」という言葉はあまり聞かれない方も多いかもかもしれません。頭頸部は鎖骨から上で、眼と脳、脊椎を除くすべての範囲を指します。

この領域に発生する悪性腫瘍のことを「頭頸部がん」と呼び、耳鼻咽喉科が診断、治療を担当します。すべてのがんの中でおよそ5%が頭頸部がんといわれています。

頭頸部がんには様々な種類があり、主なものには舌がんを含む口腔がん（最近では某芸能人が舌がんになり、注目を浴びました）や咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん、鼻・副鼻腔がん、唾液腺（耳下腺や顎下腺など）がんなどがあります。

頭頸部がんの特徴

<口腔がん>

舌、頬や歯肉の粘膜、唇などにしこりができます。初期は口内炎と区別がつかないこともあり、治りが悪い口内炎は注意が必要です。

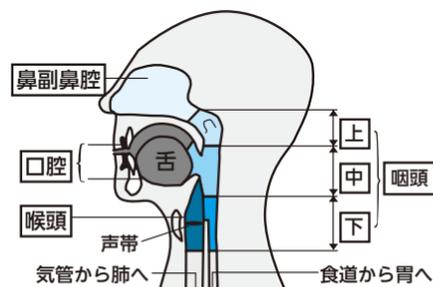
首のリンパ節に転移を起こすことがあり、首のしこりが出てくることもあります。

原因として飲酒・喫煙のほか口腔内の不衛生や合わない入れ歯なども原因と言われています。

<咽頭がん>

鼻の奥の突き当たり部分から食道の入り

頭頸部の各部位



口までを咽頭と呼びます。この部位はさらに上咽頭、中咽頭、下咽頭に分かれ、ここから発生したがんはそれぞれ上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がんと呼ばれます。

上咽頭がんの症状は、鼻のつまり感や繰り返す鼻血、片側の難聴などがあり、首のリンパ節に転移を起こせば首のしこりが出現します。

中咽頭・下咽頭がんの症状はのどの痛みや声のかすれ、食事摂取時の違和感や、首のリンパ節に転移を起こしやすいため首のしこりが症状となります。

咽頭がんの原因はやはり飲酒・喫煙が多く、上咽頭や中咽頭がんの一部は特殊なウイルス感染が原因と言われています。

<喉頭がん>

声帯を含めた声を出すための部分を喉頭と呼びます。症状としては声のかすれが最も多く、その他血痰やのどの痛みなどがあります。

やはり首のリンパ節に転移を起こすことがあり、首のしこりが出てくることもあります。喉頭は息をするところでもあるため、進行した場合は窒息してしまう危険性があります。喉頭がんの原因として最も多いのは喫煙と飲酒です。

<甲状腺がん>

甲状腺はのどぼとけの少し下にある蝶のような形をした臓器で、甲状腺ホルモンと呼ばれるホルモンを作り、体内の代謝に関して重要な役割を担っています。

甲状腺がんの症状は首のしこりもとても多く、進行すると声がかすれる症状が出てくることもあります。甲状腺がんの原因はまだはっきりしておらず、適切な予防方法はないのが現状です。甲状腺がんのごく一部には遺伝子や放射線の関与が判明しているものもあります。

頭頸部がんの治療

頭頸部領域は呼吸をしたり声を出したり、食事を飲み込んだり、においをかいだり、さらには音を聞いたりと生活する上でとても重要な機能が集中している場所です。

したがって頭頸部に発生したがんに対する治療はその機能を喪失する可能性もあるため治療方法の選択はとても重要です。

進行度や根治の確率などで抗がん剤治療や放射線治療、手術治療などを選択することになるケースが多いですが、当院

には経験豊富な頭頸部がん専門医が在籍しており、正確な診断を確定させた後、様々な治療についてご提案し、患者さんやご家族とよく相談をした上で治療にあたってまいります。耳鼻咽喉科以外にも放射線科、歯科口腔外科、緩和ケア科、消化器内科や外科などと密に連携を取り診療にあたってまいります。

当院での治療が困難と判断された患者さんには大学病院やがんセンターなどへご紹介することもあります。

頭頸部がんに限らず、すべてのがんに言えることですが早期発見、早期治療が最も大切です。長引くのどの痛みや声のかすれ、首のしこりなどがある場合はまずは耳鼻咽喉科に受診することをお勧めします。地域の皆様に少しでもお役に立てるよう、草加市立病院全体でone teamとして努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



乳腺センターについて

乳腺センター長 杉本 斉



乳がんについて

乳がんは日本人女性の生涯あたり約11人に1人ほどの割合で発生すると言われています。

2015年の年間発症者数が93,000人で、胃がんや大腸がんを抜いて女性のがん罹患率の第1位を占めており、現在も毎年増加の一途をたっています。

そして2017年には約14,200の方が乳がんによって亡くなりました。

従って、女性における乳がんの対策はかなり重要であると言えます。

埼玉県の乳がん検診に関しては2016年の統計によると全国で36.9%に対して埼玉県は35.1%とやや低い結果でした。

検診を積極的に受診しましょう。

乳がんのリスク

乳がんのリスクについてはまず生活習慣や環境因子によるものと家族歴などによるものとで分かれます。

生活習慣ではアルコールや喫煙、肥満でリスクがあがることが確認されておりま

す。しかし、最近言われている乳製品を多く摂取するとリスクが上がることや、大豆イソフラボンでリスクが下がるといったことは証明されていません。

また授乳経験があるとリスクが下がりますが、乳腺炎の既往や乳腺症や線維腺腫などの良性疾患でリスクが増えることはありません。

家族歴については第1度近親者(親、姉妹、子)に乳がんの方が1人いる場合はリスクが2倍、2人以上いる場合は3.6倍と

言われています。

乳がんの遺伝についてはHBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)がありますが、全乳がんの1%程度であり多くはありません。

乳がんの症状

乳がんを受診した患者さんの症状として一番多いのが乳房のしこりで、およそ8割を占めています。

次が検診や他の検査で偶然見つかった方が1割程度で、このような患者さんは自覚症状が無い人が多いです。その他、皮膚のひきつれや乳頭からの出血、腋の下のしこりから乳がんが見つかる患者さんもいらっしゃいます。

しこりががんであった場合、放置してしまうと、がんが皮膚から露出し、出血や悪臭を引き起こしたり、がんが転移して治すことができなくなってしまうこともあるため、しこり(特に閉経後の方)がある場合は早めに受診したほうがよいでしょう。

当院での乳がん診療

当院では2012年から乳腺外科を立ち上げて専門的な診療を開始しました。2019年からは、放射線科、病理診断科とともに、乳腺センターとして活動しています。乳がんの治療は手術、化学療法、放射線治療とありますが、常に最新の知見を取り入れて診療にあたり、大病院と比べてもひけを取らないと考えています。

手術は温存手術や乳房全摘手術を行い、術後にリンパ浮腫になりにくいセンチネルリンパ節生検も行っております。また



マンモグラフィ

良性腫瘍も小さいものではあれば日帰りの手術を行っています。

乳房再建手術については今後できるように整備していく予定となっています。

化学療法については現在保険診療でできる乳がんの治療薬はすべて使用することができます。

外来化学療法室もあり、通院でも安心してなるべく負担が少なく治療が継続できるような施設も整っています。

また、放射線治療も週1回放射線治療専門の医師が診療を行っています。

当院でどうしても対応できないようなことについては東京医科歯科大学や都立

駒込病院と連携して対応しております。

診療体制と診療実績

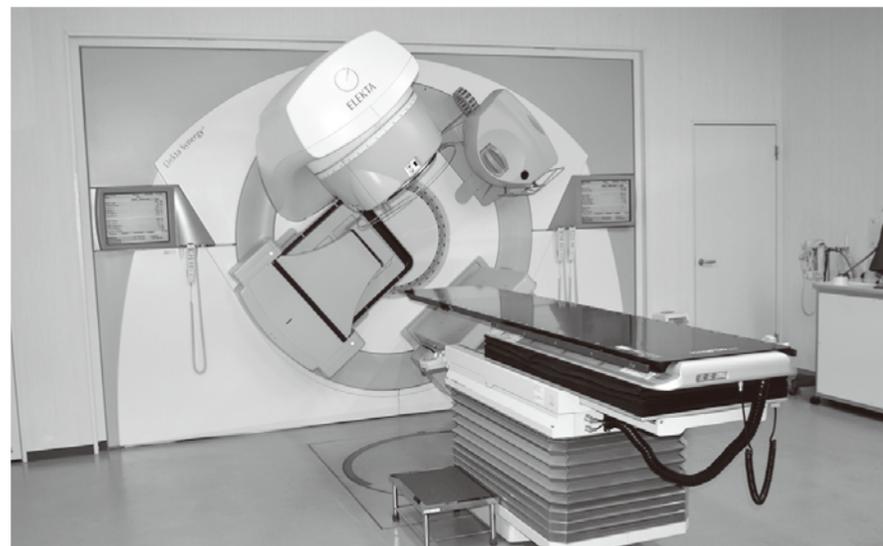
<診療体制>

現在当院では月曜日午前と金曜日午後に杉本が診療し、木曜日の午後は東京医科歯科大学の医師に手伝いに来ていただいています。

また、地域の病院とも連携を行っておりますので、まずお近くの乳腺外科を診療している病院に受診していただいても問題ありません。

<診療実績>

2019年の乳癌手術は54件でした。そのうち乳房温存手術が24件、乳房全摘手術が30件でした。当院の特徴としては全国平均と比べると高齢の患者さんが多く、ややステージが進行している患者さんが多い傾向にあります。乳がんは早期発見すれば予後の良いがんの一つです。しこりなどの自覚症状がある方は早めに医療機関を受診するようにしましょう。



放射線治療装置

がん・緩和専門認定薬剤師について



薬剤部 副部長 木村 直也 (がん薬物療法認定薬剤師)

はじめに

医療は医学や薬学の進歩と共に高度で複雑化しています。

医師をはじめとした医療スタッフは、患者様に最善の治療を提供するために多職種がチームを組み、連携して治療にあたっています。

このチーム医療の一員として医師や看護師と共に臨床の現場に立ち、安全かつ効果的な薬物治療を行うために活躍している薬剤師が増えています。

最近では様々な新規抗がん剤も登場し、専門領域における最新の知識と技能が薬剤師にも求められるようになってきました。

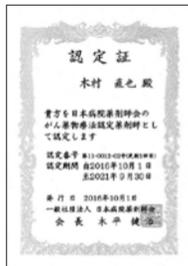
このような背景から誕生したのが「専門認定薬剤師」です。

がん医療で活躍する薬のエキスパート

専門認定薬剤師は各専門領域の医学薬学の知識と薬物治療に関する高度な知識・技能を持っていると認められた薬のエキスパートです。

医療の現場で有益な最新の薬学的情報を提供し患者様への治療が安全かつ効果的に行えるように支援しています。

草加市立病院薬剤部では、がん薬物療法認定薬剤師2名、外来がん治療認定薬剤師2名、緩和薬物療法認定薬剤師2名、麻薬教育認定薬剤師1名のがん領域における多くの薬のエキスパートが活躍しています。



がん・緩和専門認定薬剤師の使命

様々な新規抗がん剤によりがん治療成績も向上してきた一方で、その使用方法や取り扱いには十分な注意と厳正な管理が必要になります。

実際に抗がん剤治療を実施するには薬用量、治療間隔、肝臓・腎臓機能等を十分に考慮した上で、数多くの治療法の中から最適な治療法を選択します。

がん専門認定薬剤師は、患者様の病状と薬の設定を照らし合わせることで最善の組み合わせの治療法であるか、副作用対策は万全であるか等を医師と協議を重ね確認していくことが大きな使命となっています。

また、がんの患者様には身体的な痛みだけではなく日常動作の制限の悩みや精

神的な悩みなど様々な悩みがあります。

これらを和らげる緩和療法においても医師、薬剤師、看護師等が医療チームを結成し、それぞれが得意とする専門分野で協力し合っています。

緩和専門認定薬剤師は痛みに対する薬物治療に精通しており、身体的な苦痛を和らげるために患者様のそばに寄り添い、痛みの強さに応じた適切な薬の組み合わせを医師へ提案支援をしています。

おわりに

以上のように、私たち薬のエキスパートは、がん医療に係る全ての薬に対する高度な知識・技能を持ち、常に最新の情報を収集して安全かつ効果的な質の高い薬物治療に努め、がん医療の発展のために日々努力をしています。

腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る検証委員会の報告を受けて

はじめに

当院では、腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る問題が発生したことをうけ、平成30年5月15日に「腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る検証委員会(以下、「検証委員会」という。)」が設置されました。検証委員会は学識経験者、医師、弁護士、行政機関職員、草加市の副市長の7名で構成され、本件に係る原因調査及び検証、必要な改善策について検討されました。

検証委員会は20回にわたって開催され、平成31年3月28日に報告書がまとめられました。

報告書には「草加市立病院には、本委員会として猛省を促し、こうしたことが今後起こらないように、内からの再生の仕組みを基本的に提言した。」とあり、右のように提言を受けております。

検証委員会からの提言事項(報告書抜粋)

- 1 マネジメント体制の改革
- 2 医療体制の再構築
- 3 事務部の改革と診療報酬請求業務の改善

報告書については草加市立病院ホームページから確認ができます。

<http://soka-city-hospital.jp/m06/m06/sinryouhoushu2.html>



提言を受けて

当院では検証委員会からの提言を受けて、次のように取り組みを行っております。

<1 マネジメント体制の改革>では、委員会規約の見直しや、病院内部組織の機能強化と充実に資する事を目的として、令和元年7月5日に内部統制者として井出健治郎氏が就任されました。

また、当院の管理運営及び提供している医療について第三者機関から評価・認定を受ける為に、病院機能評価受審の取り組みを行っております。

<2 医療体制の再構築>では、倫理審査体制強化のため高難度新規医療技術等評価部門など新たな部門を設置しました。また、病院機能評価の取り組みを進めることにより、診療の質の向上に資する体制を整えております。

<3 事務部の改革と診療報酬請求業務の改善>では、医療事務部門に経験者を採用し、体制の強化と責任・業務分担の明確化を図っております。

今後も信頼回復に向けて職員一同、一丸となって取り組んでまいります。

断らない医療の実現とがん診療の充実

草加市病院事業管理者 河野 辰幸

当院は新築移転した2004年以降、地元病院・診療所(一次医療機関)との業務分担を前提に高度の急性期医療を担う二次医療機関として整備を進めてきました。地域の公的基幹病院としていわゆる政策医療を担い、心臓・脳血管、小児の領域を含む救急車対応は埼玉県東部医療圏でトップの実績ですが、なお市民のニーズへ十分には応えきれ

ていません。また、病状の安定した患者さんの当院再診希望が強いため、二次医療機関での診療を必要とする新規患者さんの紹介を迅速には受けられないという深刻な課題も抱えています。

本号では市立病院におけるがん診療への新たな取り組みをご紹介します。当院では年間約1,000人のがん患者さんが新たに登

録され、大腸癌など一部のがんに対する診療実績は埼玉県内でもトップクラスであるなど、有数のがん診療施設でもあります。管理者として2年目の現在まで婦人科腹腔鏡手術関連問題への対応に追われてきましたが、今後は救急要請や紹介を断らない医療の実現とがん診療の更なる充実を図り、病院理念の実現に力を入れていきます。

